

生きる力という理念は変わらないが、評価の観点が変わり、指導内容が増えた中で、我々の毎日の授業を子どものものにするにはどうすればよいか。

1 教科書の内容を順序よく教えると・・・

前回の学習指導要領の改訂と同時に学校5日制が導入され、土曜日分の授業時数以上の学習内容が減らされた。また、総合的な学習の時間の創設もあり、「ゆとり」教育をマイナスイメージの言葉としてマスコミが作った。分数ができない大学生が話題となり、国際的な学力調査の国別順位も下がったと言われ、「ゆとり」教育がバッシングの標的となった。

その流れを受け、減り続けていた授業時数も今回、増加されることとなり、教科書のページ数も約25%の増加をみた。ここで、注目したいのは、ページ増分ほど、授業時数は増えていないところである。もし、教科書を初めから順に教えると、約20%のスピードアップを図らないと終わらない。再び、「落ちこぼれ」ていく子どもをつくりかねないし、学力格差がさらに拡大するかもしれない。



「ピラルクは巨大淡水魚で・・・、うん？」

2 教科書で教えること

同じ出版社の教科書は全国どこにいても同じであり、一般性しか持ち得ない教科用教材ととらえられ、眼前の子どもたちや地域の実態などを入れ込む教材化や単元化が必要となる。特色ある学校づくりをめざすためにも、教科書で教えるというカスタマイズの考え方が重要である。

そのためには、以下～にあるように、単元に軽重をかけたたり順序を入れ替えたり、また単元間の関連・合科的指導を図ることも求められる。つまり、教科書のカスタマイズは、深川小のカリキュラムづくりと軌を一にするものである。

学校や教師には、教科書を使用する義務が課せられているが、教科書は眼前の子どもたちに合わされてこそ意味あるものになる。教科書のページが増えたこの機会をとらえ、教科書のカスタマイズやカリキュラムづくり主体的になってほしい。それが、子どもたちの学力保障と直結するからである。(芝)

カスタマイズ[customize]
手を加えて、好みのものに作り変えること。

総則P17～18
【地域の実態】
地域には、都市、農村、山村、漁村など生活条件や環境の違いがあり、産業、経済、文化等にそれぞれ特色をもっている。このような学校を取り巻く地域社会の実情を十分考慮して教育課程を編成することが大切である。
【学校の実態】
学校規模、教職員の状況、施設設備の状況、児童の実態などの人的、物的条件の実態は学校によって異なっている。教育課程の編成に際しては、このような学校のもつ条件が密接に関連してくるので、効率的な教育活動を実施するためには、これらの条件を十分考慮することが大切である。
【児童の心身の発達の段階や特性】
児童はそれぞれ能力・適性、興味・関心、性格等が異なっている。学校においては、児童の発達の過程などを的確にとらえるとともに、その学校あるいは学年などの児童の特性や問題点について十分配慮して、適切な教育課程を編成することが必要である。

各学校において指導計画を作成するに当たっては、各教科の目標と各指導事項との関連を十分研究し、まとめ方などを工夫したり、内容の重要度や児童の学習の実態に応じてその取扱いに軽重を加えたりして、効果的な指導を行うことができるよう配慮しなければならない。また、教材・教具の工夫や児童の理解度の把握などを通して、教えることと考えさせることの両者を関連付けることも重要である。(総則P49)

各教科の学年別の内容に掲げる事項の順序は、特に示す場合を除き、指導の順序を示すものではないので、学校においては、その取扱いについて適切な工夫を加えるものとする。(総則P49)

児童に確かな学力を育成するため、知識と生活との結び付きや教科等を超えた知の総合化の視点を重視した教育を展開することを考慮したとき、教科の目標や内容の一部についてこれらを合わせて指導を行ったり、関連させて指導を進めたりした方が効果が上がる場合も考えられることから、合科的な指導を行うことができることとし、関連的な指導を進めたりすることができることとした。(総則P50)